

## ★青梅市で40.8度を記録—「羽村市も熱中症対策を」と要望

以下の内容を、市長・教育長へ要望しました。  
実現にむけて、働きかけを強めます。

- ①市内及び周辺地域の保健センターから熱中症に関する情報を逐次収集し、現状を正確に把握を。
- ②ゆとろぎや町内会（自治）会館などを一部開放して、お年寄りが熱中症から逃れられるように。また、施設への行き帰りの配慮も。
- ③中学校の部活動はじめ、諸活動は行き過ぎがないようにしっかりと時間の制限などの指導を。
- ④小学校のプールについては、すでに中止の措置が行われたようだが、その他の登下校などでの適切な指導を。

### ◆熱中症で搬送された人数

羽村市内	今年	昨年
1月～6月	6人	2人
7月 (29日まで)	22人	6人

(福生消防署調べ)



地域振興課に要望を伝える

## 北朝鮮 問題

### ★米朝首脳会談で始まった 「平和のプロセス」を前進させるために頑張ります

■「いつ北朝鮮からミサイルが飛んでくるかわからない」と多くの国民が心配していた昨年末。南北首脳会談、米朝首脳会談を経て、状況はすっかり変化しました。

なかなか具体的な成果は現れてきませんが、朝鮮半島の非核化、朝鮮戦争の終結に向けた政治の流れは、簡単には後戻りを許さない確たるものになっています。

日本共産党は以前から、米朝直接対話を行い、戦争になることだけは絶対に避けるべきとの呼びかけを、アメリカや日本政府などに対して行ってきました。生まれている「平和のプロセス」を前に進めるため、「野党外交」の努力を続けていきたいと考えています。

■一方、日本政府の対応には、様々な問題が生まれています。「圧力一辺倒」の姿勢を続けてきたため、問題解決の「かやの外」に置かれ、北朝鮮とのパイプも十分に確立できていないようです。拉致問題の解決のためにも、政府が対話路線にしっかりかじを切るよう求めていきます。

また、北朝鮮問題を理由に導入を決めた「イージス・アショア」（陸上に配備するミサイル迎撃システム）は無用の長物であるだけでなく、北朝鮮との対話の障害にもなるものです。政府は、5000億円近くかかるという、「イージス・アショア」の導入に固執し続けています。その裏には、トランプ大統領との約束という理由がありそうですが、導入を中止するよう断固求めていきます。

■横田基地をかかえる羽村市などは、万が一戦争が起これば、相手からの攻撃対象になる危険性が大いにあります。「戦争だけは起こさない」という信念に立って、憲法9条を生かした日本の政治をつくっていくこと、横田基地など日米軍を縮小・撤去して、独立・平和の外交をつくっていくことなど、羽村からもメッセージを発信し続けていきます！

羽村市議会議員 浜中じゅん 議会/活動報告 2018年8月

# はまじゅん通信 NO.11

事務所 栄町2-28-22 リヴェールパオ101

日本共産党

自宅 ☎・Fax555-6346 携帯080-5407-6346 Japanese Communist Party



## 「安倍政権おかしい」の声広げ、 まともな政治を取り戻そう！



野党合同ヒアリング

●「ひどい国会だった」—マスクコミでも、街中でも、こうした声が多く聞かれました。安倍首相や昭恵夫人の関与が明白だった森友・加計問題では、様々な証拠が出されたにもかかわらず、ウソの上塗り続け、事実解明はなされず終いでした。一方、世論の多数派が反対していた「高度プロフェッショナル制度＝残業代ゼロ法案」や「カジノ実施法」「参議院6増」は、数の力で押し通されました。権力の暴走を監視し、国民の声を政治に反映する国会の役割は、完全に投げ捨てられてしまいました。

●その一方で、野党の協力・共同が大きく前進したことも、この国会の特徴でした。テレビでたびたび報道された「野党合同ヒアリング」は118回を重ね、政治の様々な問題を浮き彫りにしました。「原発ゼロ基本法案」「被災者生活再建支援法案」など、20の法案を野党が協力して国会に提出しました。そうした取り組みの成果として、政府のデータの誤りをあばき、「裁量労働制の拡大」を法案から削除させることもできました。

●9月の自民党の総裁選挙では、すでに安倍3選が目されており、秋以降に召集される臨時国会では、憲法9条改定が大きなテーマになってくる可能性があります。

●安倍政権のこれ以上の暴走をストップさせ、国民の声が生きるまともな政治を取りもどすためには、それに対抗する野党の力を結集し、選挙でも勝利していくことが欠かせません。日本共産党はそのために全力で頑張ります。ぜひ、応援してください。

## ≡ 続く猛暑！ 熱中症対策を！（詳細は4ページへ）

～共産党市議団が「熱中症に対する緊急対策の要請書」を市長・教育長に提出～

生活相談、無料法律相談(要予約)を お気軽にご利用ください。

080-5407-6346(浜中)

# 浜中じゅんの6月議会報告

## 一般質問

(内容を損なわないように要約してあります)



### (1) どの子ども分かる授業を

#### ① 40人近い学級では、子どもたちに目が行き届かない！

●公立の小中学校の教職員にとって第一の課題は、どの子ども分かる授業の実現だと思われま。す。「どの子ども」のところ重要です。教職員はよく努力されていますが、どの子ども授業が「よく分かった」と言える状況にはありません。それを実現するためには、目の行き届く少人数学級(35人以下)と、教職員が授業を準備する時間の確保が必要です。文部科学省は、小学校の1年生のみ少人数学級を実施し、全都道府県とかなりの数の市町村では、その上に独自の予算で少人数学級を上乘せしています。羽村市独自の施策を求めて問います。

**質問** 羽村市でも、(市独自の予算で教員を増やし)分かる授業や丁寧な生活指導をしやすい少人数学級(35人以下)実現への検討をすべきではないか？

**教育長** 羽村市では、現行の国や東京都の教員の配置定数に従っていく。(少人数学級を行っていく考えはない)

#### ② 過密スケジュールでは、安全や分かりやすさに問題あり！

**質問** (条件が整わない中で市独自の英語教育の強化がなされ、小学校は過密で授業時間数の多いスケジュールに日々追われている)

ある学校では、朝の学級指導と移動時間合わせて10分しか確保されていないため、児童の健康チェックや連絡する時間が不足し、1時間目の授業に食い込むことがしばしばあるそうだ。また、英語の特別時間を確保するために平常45分授業を40分に短縮にする場合もあると聞いている。これでは児童の安全や安心、本来の授業時間の確保がおぼつかない。現状を把握して早急に改善すべきではないか？

また、これまで教員は、子どもの休憩時間や給食の時間も使って、やっとの思いで家庭からの連絡帳に返事を書き、宿題の○付けなどを行ってきた。今年度、さらに授業時数を増やしたことで、それらの仕事ますます困難になっていると聞いている。連絡帳に返事を書くことは、健康などに関する極めて重要なことで、それができにくくなっている事をどう考えているのか？



**教育長** 1時間目の授業に食い込むことや、平常45分授業を40分の短縮授業にすることなどありえないことなので、よく調べて対処する。連絡帳に返事をする事など重要なことなので、時間が確保できるようにしていきたい。

### 浜中コメント

どの子どももしっかり学習するには、それを支える体制が整っていなければなりません。行政はそのために、課題と改善方法について多くの教職員からもっともっと意見を聞く必要があります。まだ実態の把握が極めて不十分です。その上で、その意見を改善に活かす努力を強めるべきです。

#### ③ どの子ども分かって自信が持てるように、教育に多くの予算を！

**質問** 市の将来を考えたとき、人を育てることこそ最優先にしなければならないと考える。反対も多く、お金がかかりすぎる羽村駅西口区画整理は見直し、人を育てる少人数学級などにもっと予算を使うべきと考えるがどうか？

**教育長** 将来を担う子どもたちへの教育が重要であることは、市民の共通認識であるにとらえている。今後も、教育のさらなる充実に努めていく。



### (2) 困窮を広げる生活保護費削減は中止に

●格差の拡大の中で、命綱となっている生活保護費の「生活保護基準」は、税の負担軽減など47種類もの社会保障の基準になっています。この基準引き下げによって、生活が困難な家庭の多くをますます厳しい状況にしています。生活保護費の削減推進は、即刻やめるべきです。

**質問** 2013年の見直しで平均6.5%カットされた。さらに、今回も全体として引き下げとなる。国の関係部局に引き下げないよう働きかけるべきでは？

**市長** 現行基準から5%以内の減額にとどめることなどの配慮がされているので引き下げないよう働きかける考えはない。

### 市財政の悪化で、市民サービスを削らないよう

#### — 「羽村市長等の給料の引き下げ条例」についての浜中じゅんの発言要旨 —

財政の悪化のなかで、市長などの給料の引き下げは、市民の理解を得られると思います。しかし今後、職員の給料に波及させることについては慎重に検討が必要です。また、各部の事業の見直しについては、市民目線で市民の理解が得られ、極力、市民生活に支障が出ないようにするべきです。